

次代を担う

～青年中央会の会員紹介～

「三重県中小企業青年中央会」は、三重県中小企業団体中央会の会員組合に組織されている青年部を会員としています。

会員相互の連携と組合青年部等の事業活動を強化することにより、次世代を担う指導者の養成を図り、中小企業並びに組合の事業活動促進、企業の振興発展に寄与することを目的としています。

ここでは、青年中央会会員である組合青年部さんをご紹介します。



青年部全体

三重県屋外広告美術協同組合青年部は、現在部員は22名で、部長の池村氏は加入してはや20年になります。近年、業界全体として若い人が少ないため、青年部でも若い世代が少なく45歳だった卒業を、5年前からは50歳卒業制度に変更しました。奥山副部長は、「事業者数は減少していないが、若手がないため、今後事業承継が課題となっていく」と将来を案じており、事業承継ではなく一念発起し、独立して経営者となった阪井副部長は、「今後創業する人材も増えていって欲しい」と期待を寄せています。

主な活動内容は、年3回北勢・中勢・松阪各支部が主催する経営に関する講演会や技能を高めるための講習会などの例会を開催。3年前からは毎年、三重県総合文化センターにおいて、わが国を代表するプリンターメーカーも出展する看板資材の展示会「掘り出し市」を開催しており、三重県でメーカーが5社集結するのはこの展示会のみです。この「掘り出し市」で組合員とメーカーとの絆が更に深まり、最新の情報の入手や、仕事の幅の広がりなどもできたそうです。

また、今年度は、日本屋外広告業青年部連合会の全国交流会を11月に三重県で開催することとなり、全国から100名を超える参加者を迎えるため、青年部一丸となって準備に取り組んでいます。この全国交流会は、組合員同士の親睦を深めるとともに、将来の組合活動の充実とより一層の活性化を図るための重要なイベントです。井村屋グループ(株)代表取締役会長(CEO)浅田剛夫氏の講演も予定されています。

普段の作業では屋外広告士の資格を生かして屋内外の看板の製作・設置はもちろん、横断幕・黒板・のぼり旗・掲示板・木彫りの彫刻から車両のデザイン塗装まで幅広く、多岐にわたる専門的知識技能を駆使し、作業を行っています。

また、池村部長のイケムラ看板では地域貢献の一環として、平成17年から毎年近隣の小学2年生を対象にした生活科学習「町たんけん」を受け入れています。見学の際に、大型のインクジェットプリンターで様々な文字やキャラクターのシールを印刷したり、カッティング作業を体験してもらいます。その後、大きなパネルにカッティングしたシールを貼り看板は完成。池村部長は、「看板ができるプロセスに触れ、小学生がわくわくしている様子を見るのがとても嬉しい」と顔がほころんでいました。

3年ほど前、札幌市において、ビルの外壁から看板が落下する事故が発生したことを受けて、三重県では平成30年10月より屋外広告物の安全対策の充実を図るため三重県屋外広告物条例が改正されます。従来、許可が不要であった自家用広告にも3年以内ごとに点検が義務となるなどの改正です。高さが4mを超える看板については屋外広告士等の有資格者による点検が必要にもなります。看板を設置されておられる方には点検が義務であることをご理解いただき、点検の際は是非当組合をご利用いただきたいと思います。と語ってくださいました。



三重県屋外広告美術協同組合

青年部 部長 池村 一郎氏 (中央)

(いけむら いちろう)

副部長 奥村 紳一郎氏 (右)

(おくむら しんいちろう)

副部長 阪井 敏行氏 (左)

(さかい としゆき)